育教児幼

目次

ヘッベル「わが幼時」（五）

姿

雑報

学制改革の上より見たる幼稚園

我園の一日

改造運動の根本問題

各地幼稚園

三田谷啓

森川正雄

会協園幼稚本日
謹みて新年に賀し本年に於て我國幼児教育界の益々多幸ならん事を祈り候

日本幼稚園協会

大正九年元旦

本誌定価

一冊郵便番号金査定六銭

購読申込

大正八年十二月廿七日印刷納本

東京市水道区西五軒町五之番地

東京女子高等師範専門学校附属幼稚園內

発行所 日本幼稚園協会

印刷者 鳥取石子

印刷所 東京市水道区西五軒町五之番地

説明

大正九年一月一日発行

本誌購読希望の方は右記価表により表記封筒にて御振込込み下さい。直に発行致します。（振替口座東京一七三三八〇）
幼児教育 第二十巻
大正九年一月一日発行

幼児の調節生活

築良女子高等
森川正雄

保育という事は幼児の発達を助長することである。さてその発達という事は如何なる事かと言ふに、生物がその環境に段々よく調節し適応し行くと言う事に外ならない。そこで、保育という事は、幼児をその環境に対する調節生活を学ばしめる事を意味するのである。幼児を通じて其の環境に対する調節生活を学ばしめる為に、調節しきる段階が段々よく調節し行く事を必要とするのである。これが、この発達の過程の中心である。この発達の過程を学ぶためには、生物がその環境に適応し行く事が必要である。幼児を通して其の環境に対する調節生活を学ばしめる為に、調節しきる段階が段々よく調節し行く事を必要とするのである。これが、この発達の過程の中心である。この発達の過程を学ぶためには、生物がその環境に適応し行く事が必要である。幼児を通して其の環境に対する調節生活を学ばしめる為に、調節しきる段階が段々よく調節し行く事を必要とするのである。これが、この発達の過程の中心である。この発達の過程を学ぶためには、生物がその環境に適応し行く事が必要である。
全くななる。水中生活を隔てるだろう。

水槽内にガラスを通して観察する事を

両方の翼を動かす。

現在でも母胎

水中生活を隔てる事がある。水中生活

に在ると必ず、また母胎時代は極めて雑多な水槽内にいる。

水中生活を隔えるバリア物を作り出

水槽内にいる。水中生活を隔てるバリア物を作り出す。

水槽内にいる。水中生活を隔てるバリア物を作り出す。

水槽内にいる。水中生活を隔てるバリア物を作り出す。

水槽内にいる。水中生活を隔てるバリア物を作り出す。

水槽内にいる。水中生活を隔てるバリア物を作り出す。

水槽内にいる。水中生活を隔てるバリア物を作り出す。

は、ある機官や機能が発達していた、と言えるのは、度度
の保護干渉の下にある幼児が元来に身軽変意気potential
を発音するのもである。だから言葉を自ら
使ふ前の不毛官能機能が絶ぶ、と言ふ事は同じであ
る。

使へば保存され、使はれば消滅する事は幼児の発
音や言葉が明に示して居る。元来幼児は三四歳
頃迄に種々多様の音発を発するものであるが、其れ
が母音の発音に一致したのだけが残り他は次第に消
行紀言葉も母親や家族や土地の人達の使用言葉
となって仕舞ふ。

動物の中には他の親い動物を飼育するのかあり
又抗議の結果互に飲み合うのもある。是等は互に益
防衛法と攻撃法とに工夫を施すことがある。ど
ちも一瞬時も油断することが出来ない、油断した
方が決まる事になる。そこで攻防具として色々なる
のを造り出す。介髪や鱗甲や毒牙や毒腺があり又保
護色だの擬態だの欺瞞だの放臭だの色々ある。是等
は攻防の競争が生み出した産物である。幼児は友達
の志で、遊戯をして、人間の攻防法に関する遺伝的
同志で、遊戯をして、人間の攻防法に関する遺伝的
本能を練習するものである、孤獨に楽て置いて
育て上大に価値のあることである。

右に述べた様に発達といふこととは自己と環境を
出来れば改造し行くこと、というしての間に間節を
保ち行く事に外ならぬ、改造と調節との進め方が既に
発達なのである。さて吾々人間は長い歳月の間に幾
たびか進化の岐路に踏み悪んだものであるが、その
度ごとに色々な性質を取り或は棄て、今日在るが如
度日に色々な性質を作った、そうして此の性質を幼時即
ち親の保護を受け得る間に大体具體化することにし
て居る。大人は、またも自分標準で、之を幼児の遊
戯と名づけて居るが、幼児に取っては其の娯楽とは
親が私を子の遊び相手になっておる時はそこに
何とも言えない落ち着きがあります。母親には「自分
他の人召使いても、遊び伴いれば安心、何とも
なれない」と云ふのが安心の安心がありませんから
幼稚園でも使用し、その子供を上手に上手に
それでも保髪、その子供との間には一種の落りさ
が彼女たち、先生が子供を預けたって為って、子供
はうるうるに、先生と子供とは影響を受ける答
する、先生が子供が静かであるか、何だから
ためです。

大人が二人相対した時でも、互いの間に不安があ
ると、どうにも二人は嘆きをします。洗ってあるに
平気で長い間沈黙してあります。そしてそうした落付
さが、何とも言える嬉しいものです。
三 田 谷 啓

改造運動の根本問題

世界の表に大きな火事が起って数多くの財貨を消し
し、幾多の人命を焼いた化した處の過去五年間に於け
る世界的な火とは異に前古未有のものである東
京に及ぶ神田の大火や大阪北区の大火は到底比較
する事は出来ないのである而して之に依りて元国
は破産し或国は荒発し又或国では頑焼は免れても火
の子が飛んで来たために少からぬ損害を被らねば
ならぬ。秋やうににして鎌火したが今日はその整理をせね
ばならぬ時と思ふに近きのである。かくの大刀も昨
年に降るに著らざる時には改変と云ふことである。而して此
の改変は凡ての社会に於て必要なるのである。即ち
教育、宗教、商工業、醫學、政治などあらゆる方面
に亘って色々の意味を持つ居るけれども今日は其
の最も根本の問題に就いて考えたうえののである
そこで私共が先づ第一に考えねばならぬ事は此の度の
○家庭に於ける母親の保護

家庭に於ける母親の保護

第一に母親の権利と義務が認められなければなら
ぬ。即ち母親は身體と精神を十分保護され生活し
て育て、強い子供を生むといふ権利を子供が生まれたらば十分
教育と養護を施す義務をもって居るのである。夫た
家庭に於ける子供の教養

子供が生まれた後はこれを十分注意して養育せねばならない。単にその教育の仕方には合理的な教育法及び非合理的な教育法の二通りがある。母親の無知のために、子供が病をかえるも、每年の死亡率を見るも、他の文明国よりもその数が多い。中には最も著しくその関係が見える。そしてその間にある者をもつ二週間より三週間、五週間の間によって最も著しくその関係が見える。死ぬ原因の多くは肺結核で、子供よりも婦人に多い。

私共が子どもの身体を検査をする場合に親の不注意の点を出すことが少からずある。これは子どもの養護に向けつつ極めて大切の

不合理の育児法

注目すべきことである。
居するものは郊外の散策を試みてよい空気を吸って十数年にして出て来る者である。私達が学校の子供たちの流れが非常に豊かなものである。

私達は家族の親のものも十分に注意せねばならぬ。毎日、早朝に起こり、散歩に出かけるのが習慣である。毎朝、日課に従って諸業をこなす。

又これは子供に限ったことではない。けれども、このことを考慮して、学校の授業も少し早められるべきである。

日本では、冬でも木屋を建てて、暖房をすることが必要である。冬でも木屋を建てて、暖房をすることがある。
かなければならない。こうした考えの形式的な関係においては、子どもたちの教育に、身体的・心的・社会的全般的発達に必要とされる総合的支援が求められる。

したがって、ある種の福祉施設や教育機関が求められている。そのような施設や機関において、子どもたちの発達を支えるための支援がなされるべきである。

今後は、地域の福祉や教育の機関が、子どもたちの発達を支援する立場を果たすべきである。教育の機関、地域の福祉機関、家庭の三者が連携して、子どもたちの発達を支えるような体制を整備することが必要である。
我園の一日（一）

此の間、如何にせよ、幼児のあらめる欲求に満足させることが出来得るか、苦心を致したが、何分不完
全な設備では思ふ様にもならず、たとえ古く出来た石垣を園んだ、七八十坪の庭が活動の中心場所であり、花
てある譲には、大膽のも年七月、南へ二丁離れた所に、園舎建設の工を起しました。これば、いつまでもこの小さい建物に満足し
た長休みに、あさりた、幼児を收容し保育をし始めました。しかし、遊戯室兼会堂の大建物や、（園

【石田】

松谷 博雄園長

 Oman
秋の一日

明け方より降り出した雨は、あやみなく、寒い朝の日を潤してある。高下駅にいてコロコロと、空気もよく入って来る幼児は、時々の保険に（始業一時間余出勤）迎えられ
包み切れぬ嬉しさ、雨の顔に映せ、先生もややとすがるといつては広い部屋へ走ってゆく

丁先生、母のき雨傘を貸して、先生に持つて来て来る。名札の壁もまだ乾かない位であった。次から次へと幼児や先生が入って来て来る。旧館時代雨よと、いへば、半数は鉢席したがごと子に移ってから、其率が増えて晴天の時と僅かに輝く様
は未だ未だ露し美しい園舎に懐れててか又今週の製作品が総合的になって居るので、子供たちを果し
て来るのであろうか。

いつしか時も移り、幼児等は先生の、寒ならびの声に各室の前に集り、廊下の洗面所に於て、手を洗ひ
清め、極めて静かなる、マチにつれ禮堂に入り。

形よい馬蹄形は作り手には赤い念珠、黒い念珠がいかつてある室の窓紙子は静かに開められた。

仏壇の前の雪白の布は、左右に開かれ清らかかな、みあかしは和かげ光を放つ。沉香の煙細く立ちてぬかし
き騒は室内に満ちた。
二十人ともつめていつも分割保育同様にゆったり行かれてある。

美しく六つの球を手にして「コーヒー紅葉の色ですか」と質ねる児や「先生からは赤の色、僕のオペ」というふもつぎの遊びを繰り返し「ョイシャ」フレペル先生の六つの球はとさかしく歌い出した年少者もあつたが、ここれは六球遊んであった。

時計の針は十一時半を示した。「おやおや、さて何食の準備をしかったか、手洗い出来て、よろやかな口を運べ、いいし、一粒のこさだれと謂いた。口頭も出来た。

積木室には建築場より運ばれた大きな木切れが山の様に積んである、保姫が「かぼちゃの」といへば児は何と見るか、犬が「かぼちゃの」といへば児は何と見るか、犬が「かぼちゃの」という。「犬がどうしているか、こんな物が、と先生がいわる」と、男児は、はやくも洋館、飛行機、氷箱、燈台、など立ち込み遊んだ。

「ええ、元気附件部屋の隅で、人形事、家事、私女中、、父さん、誰？、と、それ、其他すきま、か」あわよい。大工左官の活動に熱心に見守って壁泥の中に足を落したので、大騒ぎが起こった、ももう帰りの時刻となった、又もなびとり同集って、うれしい、行進や遊戯が始まった先頭はいつも、戸先に首を注がれ、ゑびずれの曲が聞え、聞いた

（12）
保育の一日を、記すに先立ち、いささか当方の位置、設備等を概観せんとす
位置は、近近市北区の一部である。敷地は、北海道の自然を胸に、
のちに、此処に、山城町、児玉町、北山通、乃木町、濱町の五町名があります。児童の多くは、此
とお解りになる事と存じます。
設備等主なる建物は、旧五十坪余を、玄関が三坪、廊下が二坪、物入れが一坪半、女中部屋が二坪、廊下を隔てて右に十五坪の保育室と、左に三十坪の教室室兼保育室があります。其廊下から、バラック建の、炊事場、
炊事場は、 Overnight で、目張りをします。窓とダル形小ストーブを作りますので、温です。此処に、水
槽があれば微温湯を満ちる下の手洗流しに五十倍のリゾル液を備えておきます。又五十人分の茶喫もありますから、眠で手洗は微温湯を満ちておきます。

幼児服飾。洋服三分ノ一弱で、他は和服です。大方ジャケツ、メリヤス、真綿等を下に着込み。上を簡略に
して居ります。靴下はスコッチか、大毛糸製で、さもない者は、二重に穿いて居ります。足袋ですと、コ
ロンボン又はカバー付です防寒帽を、冠った上に毛皮付のマントを着し、寒い日には、更にマントの
頭巾を冠り衿をし、手袋をはめ、防寒靴を穿つ常時しますが、中には、手袋なさきもの。学生帽のもの
ズボン下と、足袋との間に、赤身を二寸も、出し居るものカシミヤの靴下だけの者等もあります。これは
何處の家でも家の内は暖いので逢うつかり、自分だけ承知して飛ば出して来るからもあります。

晚秋の一 日

席状況。非常に寒い日には、学校外、交番、辻番等、旗を揚げて臨時休業しますので、教室もそんな
時は勿論休みます。それ程でなくとも、今日はと思ふ日には、家庭の急務で休ませても、一向棒は短く
して、子供の健康を第一要件としてこちらからも、休場を進める事もあります。これからは大體で、十一時頃
来られます。亦午後二時迄ですけれども、これからも、大體で十一時頃、来る者もあります。
元気よく、玄関に、出迎えて奥に見える。見ると何れの顔にも、寒さになんとか負けるものか、といひたい誇らしさが、あらわれて居る。僕なんか防寒帽だけで、マントなんか、着ないんだ。だからいつ風引いたらだめです。
為、手には、家庭に女手が多いので、何時も早い。今日も八時前に来られ、玄関に立ち、集って来て一人。「ふいに元気よく語る者に、合槌打つたうして居ると、Kさんがあ平日の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。」
手は、赤い手を摩撫してやる。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊ばせた。助は、赤い手を摩撫してやる。Kさんがあ、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊ばせた。助は、赤い手を摩撫してやる。Kさんがあ、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊ばせた。助は、赤い手を摩撫してやる。Kさんがあ、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊ばせた。助は、赤い手を摩撫してやる。Kさんがあ、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊ばせた。助は、赤い手を摩撫してやる。Kさんがあ、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊ばせた。助は、赤い手を摩撫してやる。Kさんがあ、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊ばせた。助は、赤い手を摩撫してやる。Kさんがあ、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊ばせた。助は、赤い手を摩撫してやる。Kさんがあ、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊ばせた。助は、赤い手を摩撫してやる。Kさんがあ、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊ばせた。助は、赤い手を摩撫してやる。Kさんがあ、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊ばせた。助は、赤い手を摩撫してやる。Kさんがあ、平常の滑稽な持前も何處へやら、甚だ御粘末な顔して泣いて来る。助は、髪の柔らかに、ふつうに、さして来たる。「おば、泣くのは、ちよしょない。」といつて、微温湯で手を洗へ、大きい室の温度の低い處に入れ、やがて、小さい室の暖い處で、遊
と大連神社と書いてやると、拜みに来いと案内が来る。T R子さんが三十四子供と共に寄り、稲妻
箱造って居る。試に拜む言葉を聞いて見ると、K R子さんは、「院様子を下ささい」と言っ
て拜むと、真面目にこそ
大方K R子さんは、参拜の時賀え御供物の事を思い出したのであるか、と思って聞い返して見たら、お
何とも答へないと。E子さんは、「そうじゃない、世界中の子供が、皆死ぬようなって拜むんだ」と反対を、言
て例の滑稽の調子になって居る。E子さんは教へられた通りに、懐んで白た。他幼児等もちえ
ら、傘立の上に上げて、「打ったら」と注意を与えて見たら、必ず元気とうなって居る。

遊戯室では、玄関を切り上げた手助け相手に、朝食頃ごろで大騒ぎ、S子さん、R子さん、K R子さん、
SM.case等が、ペチャの殻やビアノの下に隠れており、飛び出し、会集花柄を撫で越えたり、伏さつ
S M等が、受動的に窓に入り、格子を縫ったりして居る者もある。何にしても、SM子さん等は、

十時半頃にもなると、誰いふともなしに始まりにしません。K Kと合せ、風車や、雛子の歌を弾いてやつて、皆で太
手をポケットにاختり入れたまでもと見透いて、つっこ笑って居る。

遊戯室では、玄関を切り上げたT R手助け相手に、朝食頃ごろで大騒ぎ、S子さん、R子さん、K R子さん、
SM.case等が、ペチャの殻やビアノの下に隠れており、飛び出し、会集花柄を撫で越えたり、伏さつ

S M等が、受動的に窓に入り、格子を縫ったりして居る者もある。何にしても、SM子さん等は、

十時半頃にもなると、誰いふともなしに始まりにしません。K Kと合せ、風車や、雛子の歌を弾いてやつて、皆で太
手をポケットにاختり入れたまでもと見透いて、つっこ笑って居る。
会集と言っても、特別な事をするのではなく、今迄思いはげして遊んで居たのが、一つ轇軛になって、一つ心にしばなるといふ迄です。今日はお約束の勇吉さんの上手といえば、怪マジックをするのけれど、全くふつうで、ペアに向けたが、皆、勇吉さんの汽車よ止まれ！と、信義したる異能をするので、単に上手をする。非常に喜ぶ。何に沈むとも、汽車が霧立って来る、助手の驟長長の合図で進行し初める。雨は降る、橋は落ちる、勇吉は前掛を脱ぎ、作り返して、流し Fleet に飛ばされ、雨を片付け、整理し合営する間に女中とポロ・イとが、床を裸る棒付きで払って清める。何が絨の形をを作って見せに来たので、何をと尋ねたが本人にかも知らずに、様式を心得てたが、これは

【大分鳥類が多かった。ヒグマの足を四本つけて敷へられたり、餌を食べたり木に止ったり、羽を換げて飛んでる。】
午前九時半幼児を運動場に集め髪の乱れを整えるもの靴
足の不潔なものと調べそれを整える

園外保育の一

○

清風幼稚園

Seisho Kindergarten

19
かくさま
の
出来事の
うち
時計は、
進み行い
九時半
歴下に
部屋に
おがじし
かけてゆく
書く

止め

己が室へ

其うちに
静まりけら

先生

は

 Rohingya

あはばかりに行きたい方、行っていらっしゃい
かけ出さならば

駒げてだすな

すしのそれ

に

はさんぎ

の

深呼吸

寒さ

案の

會集

の

室に集へる

有様は

不平も云はず

大屋し

車の

駒

は

或は歌

或は

或は遊戯と

追い絵

は

庭の

見にけり

戯れ

語り合ふ

心の底

隔なく

いと広々

庭

遊

び

晴れ

小春日和

庭は

自由

の

遊び

はしまれ

心は調

内は油断

を

取ば

大馬

先生、さの

僕の

御法事で、

幼稚園を

休み

しました。先生

今度

有様

の

依頼

は

先生

の

一言

行

耳を引立て

保育の

料

かくさま
の
出来事の
うち
時計は、
進み行い
九時半
歴下に
部屋に
おがじし
かけてゆく
書く

止め

己が室へ

其うちに
静まりけら

先生

は

 Rohingya

あはばかりに行きたい方、行っていらっしゃい
かけ出さならば

駒げてだすな

すしのそれ

に

はさんぎ

の

深呼吸

寒さ

案の

會集

の

室に集へる

有様は

不平も云はず

大屋し

車の

駒

は

或は歌

或は

或は遊戯と

追い絵

は

庭の

見にけり

戯れ

語り合ふ

心の底

隔なく

いと広々

庭

遊

び

晴れ

小春日和

庭は

自由

の

遊び

はしまれ

心は調

内は油断

を

取ば

大馬

先生、さの

僕の

御法事で、

幼稚園を

休み

しました。先生

今度

有様

の

依頼

は

先生

の

一言

行

耳を引立て

保育の

料

かくさま
の
出来事の
うち
時計は、
進み行い
九時半
歴下に
部屋に
おがじし
かけてゆく
書く

止め

己が室へ

其うちに
静まりけら

先生

は

 Rohingya

あはばかりに行きたい方、行っていらっしゃい
かけ出さならば

駒げてだすな

すしのそれ

に

はさんぎ

の

深呼吸

寒さ

案の

會集

の

室に集へる

有様は

不平も云はず

大屋し

車の

駒

は

或は歌

或は

或は遊戯と

追い絵

は

庭の

見にけり

戯れ

語り合ふ

心の底

隔なく

いと広々

庭

遊

び

晴れ

小春日和

庭は

自由

の

遊び

はしまれ

心は調

内は油断

を

取ば

大馬

先生、さの

僕の

御法事で、

幼稚園を

休み

しました。先生

今度

有様

の

依頼

は

先生

の

一言

行

耳を引立て

保育の

料

かくさま
の
出来事の
うち
時計は、
進み行い
九時半
歴下に
部屋に
おがじし
かけてゆく
書く

止め

己が室へ

其うちに
静まりけら

先生

は

 Rohingya

あはばかりに行きたい方、行っていらっしゃい
かけ出さならば

駒げてだすな

すしのそれ

に

はさんぎ

の

深呼吸

寒さ

案の

會集

の

室に集へる

有様は

不平も云はず

大屋し

車の

駒

は

或は歌

或は

或は遊戯と

追い絵

は

庭の

見にけり

戯れ

語り合ふ

心の底

隔なく

いと広々

庭

遊

び

晴れ

小春日和

庭は

自由

の

遊び

はしまれ

心は調

内は油断

を

取ば

大馬

先生、さの

僕の

御法事で、

幼稚園を

休み

しました。先生

今度

有様

の

依頼

は

先生

の

一言

行

耳を引立て

保育の

料

かくさま
の
出来事の
うち
時計は、
進み行い
九時半
歴下に
部屋に
おがじし
かけてゆく
書く

止め

己が室へ

其うちに
静まりけら

先生

は

 Rohingya

あはばかりに行きたい方、行っていらっしゃい
かけ出さならば

駒げてだすな

すしのそれ

に

はさんぎ

の

深呼吸

寒さ

案の

會集

の

室に集へる

有様は

不平も云はず

大屋し

車の

駒

は

或は歌

或は

或は遊戯と

追い絵

は

庭の

見にけり

戯れ

語り合ふ

心の底

隔なく

いと広々

庭

遊

び

晴れ

小春日和

庭は

自由

の

遊び

はしまれ

心は調

内は油断

を

取ば

大馬

先生、さの

僕の

御法事で、

幼稚園を

休み

しました。先生

今度

有様

の

依頼

は

先生

の

一言

行

耳を引立て

保育の

料

かくさま
の
出来事の
うち
時計は、
進み行い
九時半
歴下に
部屋に
おがじし
かけてゆく
書く

止め

己が室へ

其うちに
静まりけら

先生

は

 Rohingya

あはばかりに行きたい方、行っていらっしゃい
かけ出さならば

駒げてだすな

すしのそれ

に

はさんぎ

の

深呼吸

寒さ

案の

會集

の

室に集へる

有様は

不平も云はず

大屋し

車の

駒

は

或は歌

或は

或は遊戯と

追い絵

は

庭の

見にけり

戯れ

語り合ふ

心の底

隔なく

いと広々

庭

遊

び

晴れ

小春日和

庭は

自由

の

遊び

はしまれ

心は調

内は油断

を

取ば

大馬

先生、さの

僕の

御法事で、

幼稚園を

休み

しました。先生

今度

有様

の

依頼

は

先生

の

一言

行

耳を引立て

保育の

料

かくさま
の
出来事の
うち
時計は、
進み行い
九時半
歴下に
部屋に
おがじし
かけてゆく
書く

止め

己が室へ

其うちに
静まりけら

先生

は

 Rohingya

あはばかりに行きたい方、行っていらっしゃい　
先生、そんな事はありません。それはあなたの思いだけでしょう。
花子、いえ、本当ですよ。この間、私がよく、お留守番をした時、い人から、日曜には、何処かへ連れて行くわけ、「

「先生、繩飛びの縄を廻して下さい。」
「ええ子さん、入れて下さい。」
「ええ子さん、小さいが、いんです。」
「いえ、違います、いま、いんです。」
「先生、大きなトンネルが出来ました。早く入って、しやがれ。」

「ええ子さん、ひとりが、しで、ということをしろと。スミさんさんだの、三郎さんさんが邪魔に来て、道具を、めしゃめしゃ。

「ええ子さん、ひとりが、しで、ということをしろと。松さんさん、なんた集る、ちび力士、組んぐまとは、修羅の巻と。なりにけり。この方をmeno。松さんさん、やがて剣を。」

進み出て、先生、杉山さん、人のこまる事や、いがる事はよしません。「さあ松子さんと、ごめんなさいとささい。」
先生、お詫びをなすったら、機嫌を直して、堪忍してあげて下さいね。

先生、鬼ごっこをしましょうから、用意トンも云って下さい。

○先生、競争をしましょうから、中出合いの

集め来て

先生、お仕度が出来ましたか。それでは、ご飯に致しましょう。

先生、おすみになってから、お普教しません。

程なくすみて

食休み、

単夢を持出す

ものもあり

絵本折紙

すさくの

遊にしばし

生のサアお庭に出して遊びましょう。

遊び、運ぶ

時もなし

引出しに

納めて庭に

下りたてば

元気百倍

我が室へ
初冬の一日

今年は例年ながら暖かさで、餘程凌ぎようできないが、やはり午前中は寒さ酷しく、十時に発表をしたとき、会場の時は、皆寒そうでした。十一時半に食事。「ホストの晩」「 зависимしされながらも、二時に、皆、今日の寒さも忘れて楽しく我が家に帰りました。」

晩秋の幼稚園（日誌の一節）

朝日新聞（郡山幼稚園）

奈良女子高等師範

敷居幼稚園

会津カーティエ
て一点の雲もない。明の星は静かに下界を照して居る。手早く仕度して早朝より出勤、幼児の登園を迎えた。八時頃よりも幼児は三々五々登園する。もう此の頃では迎へをして賑う幼児は年少組の数人にすぎないやうになった。持参した諸物品の所定の場所に納めるや、いなや男の児は将校用の赤襟を肩に木創を履に、紅白の旗を打ち振って勇ましい戦さごつを始める。女の子は砂場に粉屋さんをするも、人形を抱きあうるも、あまり声を出さぬ。九時の時刻に銃の音で一堂に集り、「先生、早う」、「皆さん、早う」の朝の挨拶をする音を続け、音を絶え間なくひくく。その音は充実に喜ばれるようになる。木馬や手押し車や陸上ボートや軽い袋のきる音は絶え間なくひくく。

九時の時刻に銃の音で一堂に集り、「先生、早う」、「皆さん、早う」の朝の挨拶をする。音を続け、音を絶え間なくひくく。その音は充実に喜ばれるようになる。木馬や手押し車や陸上ボートや軽い袋のきる音は絶え間なくひくく。
いつものしばし室内にとまらせ皆の食事の終るのを待つのはさかへ、繪本を見せ又は積木、畫さき方、或は摺み方等自分の好みのものをさせると、皆外に出て活動して居る。自分も外に出て彼等の遊びを打っついて居ると一児「先生僕二百両増えさせた。」
胸には菊花の鯨章を掛けてある。剪綴方で作ったものらしい。又一人「先生明るいでさせとさし出すを見れば長柄のついた小さな提灯。彼等は保姆に見せることを交なさきものを喜んで居る。」「トーンネルも二三つつ出来て居る。先生見て頂けつな。」
場では大人の思い出も及ぼす大仕掛の楽庭をつくつて居る。「トーンネルも二三つつ出来て居る。先生見て頂けつな。」
幼児等は先生に見てもらふのが何よりの楽しみらしい。小山の彼方では女のもの六七人一緒にして飯事を始めてある。裏の池では木の葉船を浮べて居る。こんなに социально的である。
「チンチンデリソン」あき名残多い今日の終結。幼児等はめいい立てて道具を一切片付けた身のまわしと漆へて一堂に集り「先生様様御ゲゲゲゲ」と呼ぶの挨拶をした。彼等は小さい赤表紙の通信箇を肩にかけいつもの様に手に手をとつて元気よく門を出て行つた。
ああ今日もまた幸多い一日を送つた。
学制改革の上より見た幼稚園

【日野幼稚園主】

田

実

申すまでもない。教育は世界人類の進歩と共に喯

てきたからと言って、人生の一途を教育に費すといふよ

かな、人生は限りがあり、生みの親に限りがある。身

の経験を活かし、衆実際することができたためと

か、軍隊教育でも。完全にやるののは年限が長くか

そうか、自ら其道には限界の活動する時期は標準

として、教育期間を定めなければならぬのであり

ます。この学校教育も同様で、限るある人生に、限るの

き教育を、ある年限に縮めて、一定の期間内に於て、

て一定の年齢者に教育するのでありませ


（87）
学校を卒業したからと言って、直ちにその者は教育を受けて、学校を卒業するときには更に社会に於いて、實際活動されるまでには、自ら相営の年齢を以てその活動方策の知識と経験を修得しなければなりません。

するに、この学校教育に於て已に短かに年齢を要し、更にまた実際の修得に於て相当の年限を要する点を費さねばならぬことになる。故に私は、たとえ二十五年を至ったならば三千才内外の年齢に至るに及んで非常に不利を蒙らぬならばならぬので、学校教育は、たかって百年を達するまでもに亘って仕舞ふようにであり度いと思ふのでありま
す。社会的に有益に活動し得る年齢に達して、なれば且つ学校教育を受けてあるということも、今後の我国の進歩発達の上に於ても非常に不利と云はるる。

大学校に入り研究せんとする如き人にあつては、更らに大学校のしくす学問の研究に於ては、十年以内に於て修得せしめること、容し難事ではないのであります。たとへそれは文科とか理科とかの方針に於ては、優にそれまでの年齢で足ることが出来ます。故に私は如上の方針を以て、我学制改革の上に、その年限を短縮されることを希望するものであります。今に至るまでの年齢を軽べて、更にこれを短縮させんことを望むに、小学校、幼稚園の学制を改革すべき断案を下さねばならぬのでありまして、この系統を無視して、単に小学校は小
学校だけでなく、小学校の教育費といつもは、地方の経済の
自治団体の過半を占めて、負担にたえないと言って
いる地方もある位で、小学校をやたらに膨脹させる
ことは考え方であります。

小学校を上に拡張して、大きい子供を一年小学校
に余計計くことと、小さい子供を一年早く教育する
ことの二種の方向にについて。その何れも経済が少
なくもない子供を教育するよりも経済である。無論
完全な教育を目的とする時には、何としても小さい
時からこれを始めなければなりません。また、国家の教
育行政から考えれば、この小さい方は単に扱い、
大きい子供に小学校を一年上に拡張する方が有利で
あります。

私の理想からいえば、小学校の就学年齢はもう一
年早い方が良いと思ふ。而して五六歳の児童に
から学校へ入学させることが出来ようかと思ふ。
小学校教育を以て、はじめて教育を開始されるものの、いかなる教育を受けるかは、学校の教育、親の教育、一般の教育によって異なる。小学校においては、子供の個々の感じ方や理解力、興味などの違いが大きく影響する。また、子供の年齢、体質、親の教育方法なども影響する。

特に、音楽、絵画、文学などの美の教育は、小学校の教育においても重要な位置を占める。これらの教育は、子供の感性を育て、将来の生活を豊かにすることに寄与する。

小学校の教育は、基礎学力の向上に重点を置き、文法、数学、科学、社会、日本語などの授業を実施する。また、体育、音楽、絵画、文学などの科目も設けられている。

小学校においては、子供の個々の特性に応じて教育を行うことが求められている。そのため、教室の学習環境は、子供の個々の特性に合わせて変更されることが多く、個々の子供が楽しく学べる環境を整えることが求められる。

このように、小学校の教育においては、子供の個々の特性に応じて教育を行うことが求められる。小学校の教育は、子供の個々の特性に応じて教育を行うことが求められる。
かといふに、幼稚園に於ては直感主義の教育を根
するものであります。故に理論としての理科は小学校
で教育されるとして、その材料となるところの直感
は、幼稚園に於て教育される方が、時間に於て手
数に於ても費用に於ても、よほど簡易にして效果を
あらめることができ、初等教育の効果を増進す
右は、幼稚園に於て當今の学齢期―ケ年を取り入
れて教育する方針であるが、これと反対に、現在の
小学校の年限の半分を中学校にゆずり、その下の半
分を、幼稚園と結びつけて、八歳から九歳までにし
って下ず、純粋なる幼児教育を施設するもよろしい。
そして九歳か十歳から十四五歳までの間を學齢とし
て、義務教育を施すもよろしい。何れにしても、幼
児教育は私立が責任を負うければ、小学校は公費にすると
いうことは、國家の教育費の負擔をより軽くするも
のであります。
どんな小さな家でも、その家で生まれた子供にとって、
それは一つの大きな世界に見えぬもののはない、
その不思議、其の秘密、些々に現れて来るも
屋根裏部屋はあたる。其處へ行くのに一つの木の梯
子が懸ってある。子供はどんな感じを以てって初めて
この梯子を登る事だらう。実に、此處に載ってゐる
二三の古い道具、もう役に立たなくなつて永い永
い間忘れられてゐる道具、過ぎ去って昔を同願
人々をまた思い起させる。煙突の後側には、大抵は
大に好奇心をそるのである。箱の上には、塵埃が
手の厚い堆に積んでゐて、まだ箱には鍵前はい
てゐるが、しかしそれでも中のものを出すのに合鍵は
いらね。何故なら、何處からてゐ也好み次第に手
入れて、中のものを拵め出す事が出来るから。子
供は震えながら、ここに手をその中に入れると
中からポーヌになった長靴や、米車の竿の壊れた
のなどを引張り出す。もうこんなものは半世紀も前
に片附けられてしまいたものであるが、この二つ
の飛魚したものをぢつと見てゐて、ふと思はず、この
靴をはいた足は今何處に！と考へ出すとさあ子供は怖くな
つて、身震いしながら之を投げ出す。しかし、母親
は、それはこれやをまた丹念に仕舞つて置く。何か
有様の要る時には、この祖父の靴の紐を引き取るため
に、またこの曾祖母の系権竿は、何か盤付けても要
ぬ時の用意にと。しかし、また、よし、去年の冬の
ひどい寒さに、皆仕方なくつ、乾いた堆肥まで燃
やさなければならないた時、この箱も遂にスト
ームの中に移住してしまったとしても、屋根にゃま
だ、錫びた手錠が残つてゐる。この箇も、喫つては
穴倉に這入る事は、屋根根部に登るより、一層気をつけてなければならない。また、或はこの方法で、は入って見たい云ふ、とに熱望を、例へば隣へ行き、もし其處の女中が丁度穴倉へ行く手があると云へば、廿へなから前掛にブラ下げ、望を達する。或は、忘れて戸が閉めずにあると云ふ、手腕で這入る。しかしそ分一人で勝手に這入る事は、勿論危険なる事である。幾時急に戸が締められるかも、足の蜘蛛が、胸に行くる様な無恰好な妻で、壁に這ひ回つてある。或は、ジェットと謂っても、お前の子供は、うちへ集まって居る。また、未だ戸を開かざるときには居られない。人は、誰でも嘆は持ち合せてゐるではないか。本式に大聲して叫ぶたびには人に聞かれ、助けて来る！
母娘は、又は長母に伴われ、曲しくねた町の通
りを歩む時、騒異の念をどこぞには居られない。
「て居を出るなら、いれてこそ、幕に住むべきである。」
否、恐らくは、この時に物の永遠の模様を持つ
て家に帰るのである。永遠と云う事は、即ち、没第に
大きい友に従ってこの最初の事物の印象が打つ
無しも、何らかの印象が如何に立ち勝
（云ふよう）も、すべてのものに対抗して虚
つって居るか、と云へば、あとの美しい夏の時、日曜日や参日
と心に残ってゐるのである。あゝ、何とあのウェッ
セプテンは大きかった事であろう！五歳の子供
の足は、まだ町を回りさうる中にもう殆ど疲れ
しまつた。ま、途中で何と多く、の事に遭遇した事
だる！安に町や街路の名前が私には謡の様に不思
議に響いたではないか！"これはロールフサスへ来
た。"此處はフランケンヵウだ。今クリングベルク
へ歩いてゐる。"あそこはアイヘンネストだ。な
ど
近刊
大正幼年唱歌 表情遊戯
の 福音
遊戯界

店書黒目 所行発
謹
賀
新
正

謝舊年中多大之御愛顧
併而祈貴下永遠之萬福

東京九段フレーベル館

幼稚園用品製造販賣

電話番町二九○九

振替東京一二九六四○

幼稚園 depletion 製本所